

3.11 何をどう伝え継ぐか ～ネットワークによる伝承の未来～

岩手・宮城・福島の3県で東日本大震災の伝承に取り組む方々の報告を基に、「何をどう伝え継ぐか」を語り合うセッションを行います。震災9年目の今、被災地の現場から何を伝えるのか、今後も永続的に全国・世界へ伝え続けるためには何が必要か、「連携」によってできることは何か、伝承の担い手や市民の皆さまと共に考えます。



2019年11月10日(日) 13:00～15:00

仙台国際センター 展示棟 会議室 2

(仙台市青葉区青葉山無番地)

- 13:00 開会
- 13:05 3県の伝承の取り組み
- 13:50 意見交換(パネルディスカッション)
- 14:40 3.11メモリアルネットワーク活動説明
- 14:55 閉会

登壇者紹介



浅沼 ミキ子氏 (岩手県陸前高田市)

陸前高田「ハナミズキのみち」の会 代表

岩手県大船渡市赤崎町出身、陸前高田市在住。

1984年 陸前高田市に嫁ぎ二男一女をもうける。育児をしながら市内に勤め、2006年から陸前高田市観光物産協会勤務。2011年東日本大震災にて長男を亡くす。亡き人達の思いを語り継ぐため

絵本 2013年「ハナミズキのみち」を出版。避難誘導する道を明示し、未来へ伝える 陸前高田「ハナミズキのみち」の会 を立ち上げ、代表となり避難路「シンボルロード」完成となる。伝承へ向け活動中。



永沼 悠斗 氏 (宮城県石巻市)

大川伝承の会 / 3.11メモリアルネットワーク「若者プロジェクト」メンバー

宮城県石巻市長面出身、同市在住。大川小・中学校卒業。現在は東北福祉大学に在学し、防災福祉を中心に学んでいる。日本防災士機構認証防災士。避難所体験プログラム作成し、実行している。大川伝承の会所属。記憶の街

模型復元プロジェクト大川実行委員会若者代表委員。3.11メモリアルネットワークにて若者プロジェクトのメンバーとして次世代への伝承をテーマに活動している。



松本 光司 氏 (福島県いわき市)

いわき市立錦公民館 館長 / 元いわき市立久之浜第一小学校 校長 NPO やってみっぺく之浜・久大 共同代表

福島県いわき市出身・在住。東日本大震災時に津波と火災、原子力災害の大きかった久之浜第一小学校長として、学校再開・子どもたちの心のケアに努めた。震災後の地域再興に子

どもたちを関わらせた。また、日本赤十字社の防災教材の作成に携わり、防災教育の必要性を全国の先生方に伝えているとともに、2016年にNPOを立ち上げ久之浜の活性化に取り組んでいる。



コーディネーター 武田 真一

3.11メモリアルネットワーク 共同代表 / 宮城教育大学 311いのちを守る教育研修機構 特任教授

宮城県栗原市出身、仙台市在住。東日本大震災時に河北新報社報道部長。編集局次長などを経て2016年4月新設の「防災・教育室」室長に就任。震災伝承と防災啓発のプロジェクトに取り

組んだ。2019年3月定年退職し、宮城教育大学の施設組織「311いのちを守る教育研修機構」を担当する。